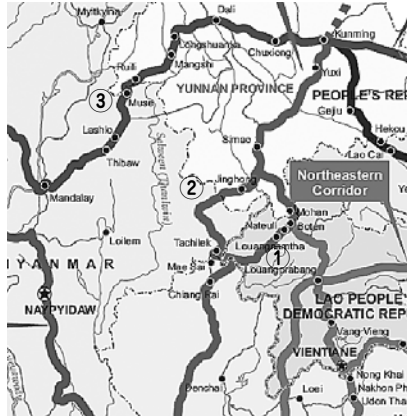


ゴールデン・トライアングル訪問記

藤村 学

去る九月、中国雲南省の昆明から出発し、ラオス北西部、タイ北部、ミャンマー東部にまたがる、いわゆるゴールデン・トライアングル（黄金の三角地帯）を視察した。この麻薬生産で有名だった辺境地帯は越境輸送インフラの整備によって貿易・投資の拡大によるゴールデン・クアアドラングル（黄金の四角地帯）へ変貌しつつある。今回視察したのは左図に示す三つの経済回廊である。



出所：アジア開発銀行サイト入手地図を編集

① 南北経済回廊ラオス・ルート

昆明から西双版纳（シーサンパンナ）自治州の景洪および中国・ラオス国境を経由して、ラオス・タイ国境まで、公共バスを乗り継いで二泊三日で視察した。昆明・景洪間の約五〇〇kmは大半が山道だが、全行程が片道二車線の高速道路で休憩所や給水所も多く設置されている。山間を縫うため多数の長いトンネルがあり、大変な道路建設であったことが想像される（写真1）。景洪からラオス国境へ向かう途中は山々の斜面にゴム園が広がる。国境での中国の出国手続きは、そのビルの威容

と比べると意外にスムーズだった。ラオス側の入国手続きもその質素な施設の印象通り、とてもおびりとしてスムーズだった。ラオス側の国境町ポーテンは、以前はカジノ施設を中心に賑わっていたが、今はゴーストタウンと化している。ラオス政府が経済特区に指定して中国系資本を誘致したが、カジノ遊興に絡んだ治安悪化から、中国政府の締め付けがあり二〇一一年を境に盛衰が一転した。ラオス北西部は以前から少数民族文化を目玉とするエコツアーがバクパッカーに人気で、ルアンナムタはその宿泊町として機能しており、中国領内よりも英語が通じる宿泊施設が多い。ポーテンからラオス・タイ国境のフェイサイまでの二二八km部分が以前は雨季には通行不可能となる悪路であったが、二〇〇八年の舗装工事完了により、急こう配・急カーブの連続する部分が多くなったものの、一気に利便性が高まった。昆明からフェイサイまで、以前は最低でも三泊四日程度の険しい行程だったが、今は一泊二日で大丈夫だ。



写真 1：ラオス・ルートの高速道路

フェイサイと、メコン川を挟んで対岸のタイ側のチェンコンは、これまで個人旅行者の中継宿泊地点として機能してきた。しかし、第四メコン国際橋の完成（二〇一三年六月予定）後には、貨物物流に加えて個人客やツアー客が素通りしていく可能性もあり、この二つの国境町で営業する旅行会社にとっては新たな生き残り戦略が必要となっている。第四メコン橋は、導人道路の基礎工事を終え、橋梁工事も中国の請負企業によって半分ほど進んでいる（写真2）。フェイサイからメコン川上流方向へ約六〇km地点にはGolden Triangle Special Economic Zone（中国

語で金三角経済特区）という中国租界が出現している。Kings Romans という名前のカジノ（写真3）とその周辺のメコン川沿いの遊歩道や出入国施設さらには偽ブランドのバッグ類を大量に並べる新しい土産物村まで、すべて中国資本が関与している。カジノ客は見たところ、四対一くらいの比率でタイ人よりも中国人が多く、彼らはポーテンから陸路で週末をかけてやって来るのだという。スタッフはすべてラオス人のようで、少なくとも地元雇用の創出には貢献しているのかもしれない。今のところポーテンのような盛衰の運命は辿っていないようだ。

② 南北経済回廊ミャンマー・ルート

メーサイ（タイ）・タチレク（ミャンマー）国境からチャイントンを経由してマインラー（ミャンマー）・打洛（中国）国境までの陸路（二五六km）往復を二泊三日で視察した。タイ側の国境町メーサイのハイライトは国境橋を往來する人々や車両の流れだ。行商、出稼ぎ労働、買い物などで行き交う両国の人々の流れは途絶えない。（写真4）。国境橋を乗り越えてメーサイ側へ飛び降りたり、逆に橋へよじ登って帰国したりするミャンマーの若者がいた（写真5）。



写真 2：第 4 メコン国際橋の工事



写真 3：ラオス・ボケウ県中国資本によるカジノ



写真 4：メーサイ橋上の往来



写真 5：密出国をするミャンマーの若者

